

(様式1)

# 個別施策評価調書

(平成30年度実績)

主管部	生活環境部	
関係部		

基本施策	Ⅲ-9 自然環境を保全・活用する
個別施策	① 環境意識の啓発
個別施策の方向	つくば市は筑波山を有し、歴史や気候風土に育まれた集落や里山の景観が形成されている。これらの特色をいかし、つくばに誇りと愛着を育むよう環境教育を推進するとともに、市民と協働による取組を推進し、市全体の環境意識の啓発に努める。

決算及び事業費内訳 (単位：千円)										
H27年度	決算	事業費	6,077	人件費	14,160	事業コスト	20,237			
	事業費内訳	国庫支出金	0	県支出金	0	地方債	0	その他特財	0	一般財源
H28年度	決算	事業費	11,695	人件費	12,094	事業コスト	23,789			
	事業費内訳	国庫支出金	0	県支出金	0	地方債	0	その他特財	0	一般財源
H29年度	決算	事業費	7,797	人件費	9,071	事業コスト	16,868			
	事業費内訳	国庫支出金	0	県支出金	0	地方債	0	その他特財	0	一般財源
H30年度	決算	事業費	8,541	人件費	11,230	事業コスト	19,771			
	事業費内訳	国庫支出金	0	県支出金	0	地方債	0	その他特財	0	一般財源

市民満足度 (市民意識調査)	H27年度	H29年度	前回比
つくば市の現状やまちづくりへの取組について	29.7%	30.2%	0.5%
25) 環境意識の啓発			

平成30年度つくば市行政経営懇談会 評価結果 (平成27～29年度実績)	
総合評価	B 施策について成果が確認でき、更に向上させるために一部改善が必要であると判断される。
提言	<p>環境スタイルサポーターズの会員数が順調に伸びていることは非常に喜ばしいことだが、自主的な活動をいかに推進していくか、また、自主的なサポーターズの増加について、今後注意を払われたい。</p> <p>環境意識の啓発事業で満足度がいまひとつ伸び悩んでいる理由もいろいろあると思うが、今後市民の満足度を上げるための方策を考えられたい。</p> <p>筑波山自然環境教育観察会をはじめとしてアウトドアなイベントが多いが、つくばの特性を考えて、中心市街地と周辺市街地の均衡がとれた環境の維持発展についても取り組まれたい。</p> <p>また、教育等の他の施策と連携して推進していくことで、より効果を高められたい。</p>

<b>施策の 取組概要</b>	<p>啓発活動として、つくば環境スタイルサポーターズ会員を中心にニュースレターやメールマガジン等で環境関連情報を提供するほか、筑波山自然環境教育や大規模緑地の観察会、小野川探検隊及び桜川探検隊、エコ・クッキング、グリーンカーテンキャンペーン、茨城県次世代エネルギーパーク見学会及びエコプロダクツ見学会等の環境に関する教育事業の実施により、市民の環境意識高揚を図る。</p>
<b>施策の 成果</b>	<p>環境フェスティバル及びまつりつくばでのサポーターズ会員勧誘により、230人の新規加入者を確保できた。</p> <p>また、筑波山自然環境教育（参加者107名）、小野川探検隊及び桜川探検隊（参加者29名）、エコ・クッキング（学校向け参加児童446名、サポーターズ向け参加者48名）、茨城県次世代エネルギーパーク見学会及びエコプロダクツ見学会（参加者70名）の実施により、市内の豊かな自然を保全する意義を考える機会の提供や市民の環境意識の向上を図ることができた。</p>
<b>課題と 改善目標</b>	<p>同様の事業が多くなってしまいうため、新しい内容の検討が必要である。また、新規の参加者を募るため、アンケート等を実施し、参加者のニーズを把握するとともに参加希望者が応募しやすい方法を検討する。</p> <p>サポーターズの数を活用した環境に関連する市の施策及びサポーターズ会員がサポーターとしての意識をもって行動できる人材となれるような活用方法について検討する。</p>

<b>自己評価（所管部署評価）</b>		
<b>自己評価 記述</b>	B	施策の成果は確認できるが、一部改善が必要であると判断される。